



令和5年1月10日

かみせや

横浜市立上瀬谷小学校 学校だより

1月号

上瀬谷小学校教育目標

学び合う子

認め合う子

鍛え合う子

ようこそ学校へ～日々の学びの場を大切に～

校長 小林 京子

本校の子どもたちは、西から南北から広範囲に渡り、距離も大変長い通学路を歩いてきます。夏の暑い日も、強風や大雨の日も、冬の寒い日も登校班で一生懸命歩いてきます。私は、毎朝、全校児童を正門で迎えるのですが、年に何回か、子どもたちに「おはよう、よく頑張ったね。学校に來ただけで100点！！」と言いたくなる日があります。

昨年の12月22日は、特段強い雨が降り、さらには、冷たい風が吹く中の登校となりました。班長さんや後ろに並ぶ下級生たちの表情もあいさつの声も冷たさで凍っているように感じましたが、かじかんでいるであろう小さな手に傘を持ち、その傘や毛糸の帽子からちらりと真っ赤な鼻の顔を見せ、「おはようございます」と登校してきました。「おはよう！頑張ったね」と声をかけると「そちらこそ」という声を返してくれた子もいました。そんな日にも旗当番の方やPTAの役員さんは、子どもたちのために、足を運んでくださっています。

子どもたちが一生懸命通ってくる学校が、楽しく充実した学びが得られる場所にするには、学校の務めです。新しい時代の要請として、ICTの活用をはじめとするGIGAスクール構想などがありますが、私は、昔も今も変わらず学校教育が担っている大切なことは、「愛情あふれる児童指導」と「質の良い授業の創造」であると考えています。子どもの心情に寄り添って温かく、時には厳しく指導することや「わかった」「できた」など、子どもたちが自分の変容を感じるような日々の授業をすることが大事だと考えています。職員は、子どもたちと向き合っている時間はもちろんのこと、同僚の授業を見たり講師を招請したりしながら自分の授業を見つめ、研鑽を深めています。今の子どもたちにとって、大切なのは、どういう自分になりたいのか、今、目指しているものは何かという「めあて」を持ち、今日はどこまでできたか、何がわからないかを知る「ふりかえり」を重ねるという学び方です。一斉の学習で同じような成果を求めるのではなく、個に応じた調整力を育てることを大切にしたいところです。

12月に実施した学校アンケートでは、94パーセントの児童が「学校は楽しい・まあ楽しい」と回答しています。私は、授業中や休み時間の子どもたちの様子をできるだけ観察し、子どもたちの空気を肌で実感するように努めています。「今日も来たよ！」という子どもたちの表情を見て、学校に送り出してくださる温かい家庭の応援あつての学校だとしみじみ感じております。

新しい年を迎え、学校教育の本丸ともいえる授業の充実について切磋琢磨しながら職員一同取り組んでいきたいと思っております。冬休みを終えて、子どもたちが学校に戻ってきました。本年もどうぞよろしくお願いいたします。